



オールドノリタケ展 Old Noritake Exhibition

カップ&ソーサーetc.

5/14(土) ~ 7/11(月)

鑑賞料300円



明治時代に横浜・神戸から海を渡った
里帰りの洋食器展

オールドノリタケ Old Noritake

オールドノリタケとは、明治末期（1885年頃）から第二次世界大戦（1945年）にかけてノリタケカンパニーの前身『森村組』や『日本陶器』が、主にアメリカやイギリスを中心に海外に送り出した陶磁器群の総称です。

海を渡った陶磁器たちが100年の歳月を経て日本に里帰りし、オールドノリタケとして注目され脚光を浴びるようになりました。

強烈な意志と活力が盛り込まれた、古き良き日本が夢を持って生み出した洋風磁器です。

オールドノリタケとの出会い オールドノリタケコレクター 近藤裕美

私はフランスのリモージュで製作した淡い色合いで薄い生地のカップやお皿に興味があり、毎月近所の大学の駐車場で開催していたアンティークショーに行っていました。

その中に、裏に「NIPPON」と刻印されたリモージュのものによく似た花柄のお皿があり、日本もこんな西洋風のを輸出していた頃があったのだろうかと思いをもち「NIPPON」と書かれたものを少しずつ集めました。

ロサンゼルス近郊の骨董屋さんにはフランス製やドイツ製の花瓶とともにオールドノリタケの作品も飾られています。私のコレクションは森村組が輸出した作品の一部です。

明治時代、陶磁器に関わる方達が海外に輸出するにあたり、日本らしい色合いのデザインを考え、日本の職人達の丁重で細かい筆使いの技が込められた作品が海外の人達を魅了したのだと思います。

100年以上の時を経て日本に里帰りしたオールドノリタケをご覧いただければ幸いです。

《ギャラリートーク》 平成28年6月12日(日) 午後2時～

「オールドノリタケコレクターズガイド」の著者木村一彦氏による『オールドノリタケ基礎講座』